

「池定・地域まもり隊」の活動

活動実績の概要

- 学校周辺地域の夜間防犯パトロール及び地域の警察署と連携した交通事故防止や振り込め詐欺防止等の地域住民に対する注意呼びかけ（平成22年度～）
- 地域社会への節電・節水啓発のためのうちわの製作と配布（平成22～25年度）
- 地域の老人施設への鏡餅及びメッセージカードの製作と贈呈（平成23・24年度）
- 東日本大震災被災地へのうちわ及びメッセージカードの製作と送付（平成23年度～）
- 地域の指定避難場所である本校内防災ハザードマップの作製（平成23年度）
- 地域社会への節電・節水啓発のためのアクリルたわしの製作と配布（平成24年度）
- 学校周辺地域のゴミ拾い（平成24年度～）
- 地域の廃食用油再生活動支援のための廃油回収及び提供（平成24年度～）
- 地域住民との合同による地域施設の清掃活動（平成25年度～）
- 地域社会への「防災うちわ」の製作と配布（平成26年度～）
- 地域のイベントに活用する「はっぴ」づくり支援（平成26年度～）
- 節電・節水のためのグリーンカーテンづくり（平成27年度～）

活動内容について

◇地域の警察署と連携した「池定・地域まもり隊」夜間防犯パトロール



※この日の様子は、平成22年7月20日にNHK徳島放送局「おはよう徳島」内でも紹介された。テレビや新聞で活動を知った町内の方が、別の日に実施したパトロールの際、励ましの声をかけてくださった。また、12月23日付の徳島新聞でも高齢者施設訪問の様子が紹介された。（徳島新聞平成22年7月15日付）

**池高(壽)生34人
町内パトロール
交通事故防止訴え**

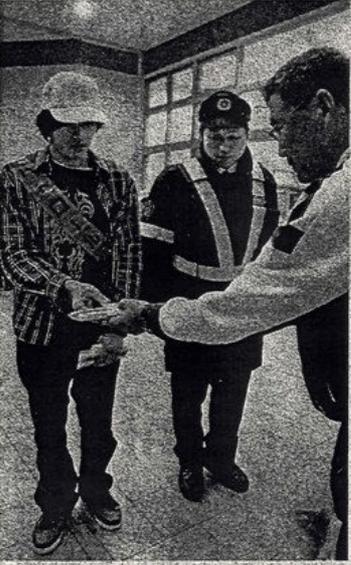
池田高校定時制(三好市池田町)に通う全生徒34人でつくる「池定・地域まもり隊」が20日夜、町内をパトロールし、交通事故防止などを呼び掛けた。

生徒と三好署員ら計約50人が参加。同署であった出発式で、4年生の廣澤天生君(19)が「地域社会の一員としてしっかり

ティッシュと反射タスキを市民に手渡す生徒(左端) 三好市のフレスポ阿波池田

任務を果たしたい」と宣言。3班に分かれて町内を巡回した。商業施設フレスポ阿波池田や阿波池田駅を訪れ、「シートベルト・チャイルドシート

池定・地域まもり隊は同校の地域貢献活動の一環として昨年夏に結成され、定期的にパトロールしている。(巽佑策)



徳島新聞(平成23年12月23日付)

**池田高定時制の生徒組織
飲酒運転根絶など訴え**

交通事故防止などを訴える池田高校定時制の生徒会 三好市池田町サラヲ

池田高校定時制(三好市池田町)に通う生徒でつくる「地域まもり隊」が、町内をパトロールし、交通事故や振り込み詐欺への注意を呼び掛けた。

生徒と三好署員ら計約40人が出席して同署で出発式が行われ、4年生の吉見由香さん(19)が「地域社会の一員としてしっかり任務を果たしたい」とあいさつした後、3班に分かれて町へ。同町サ

ラヲの商業施設・フレスポ阿波池田などで、飲酒運転根絶を訴えたり、振り込み詐欺の手口を紹介したりしたチラシなどのセット150部を配った。

地域まもり隊は2010年に結成され、地域貢献活動の一環として定期的にパトロールを行っている。(巽佑策)



【紙面編集】佐藤亮

徳島新聞(平成24年12月29日付)

「詐欺に気をつけて」

池田高定時制生徒 町内パトロール

池田高校定時制(三好市池田町)の生徒でつくる「池田地域まもり隊」

18日、年末恒例となった県警との合同パトロールを行い、同町サラダの商業施設・プレスホ阿波池田で振り込め詐欺などの犯罪被害への注意を呼び掛けた。

生徒10人と三好署員が参加。「事件事故に気をつけて」と買い物客に声を掛けながら、杜撰や未公開株に関する利殖詐欺などへの注意を促すチラシ100枚を配った。

まもり隊は2011年に結成され、社会貢献活動の一環として定期的に町内をパトロールしている。(梶佑策)



買い物客にチラシを手渡す生徒(左)と三好市池田町のプレスホ阿波池田

徳島新聞 (平成25年12月19日付)

◇地域住民の方との合同による「池定・地域まもり隊」地域施設の清掃活動

池田高定時制生徒 住民と一緒に 神社を清掃

池田高校定時制(三好市)の生徒でつくる「池田地域まもり隊」が14日、同市池田町内の神社3カ所で、地元住民と一緒に清掃作業に汗を流した。

生徒と職員、住民の約40人が3班に分かれて各神社へ。同町ウエノの諏訪神社では、生徒7人を含む12人が約1時間かけて境内の落ち葉を掃き集めたり、雑草を抜いたりした。

4年の曾我部千紗さん(18)は「町がきれいになって地域の人から感謝されると、うれしい。少しでも役に立てたら」と話した。

まもり隊は2010年に結成。防犯パトロールや清掃奉仕を通して、住民と交流する地域貢献活動を年2回ほど行っている。

(佐藤陽香)



神社境内を掃除する池田高校定時制の生徒(左)と三好市池田町ウエノの諏訪神社

徳島新聞 (平成27年7月17日付)

四国酒まつり PRへ法被

三好市の池田高校美術部員や地元在住アーティストらが協力し、21日に市内で開かれる「四国酒まつり」の特製法被を作った。シルクスクリーンの技法を駆使し、背中に華麗な絵柄を描いた。約40着を用意し、まつり当日に会場でスタッフが着用してPRする。

池田高校生・地元芸術家ら制作

法被は黒地に吉祥を表す鳳凰と、清酒が湧き出るちよこを白く描き、「四国酒まつり」「地酒で乾杯条例制定のまち」の楷書文字を入れた。

シルク印刷で華麗な絵柄

デザインは、京都産紙工芸術大で版画を専攻する瀧下泉さん(29)と、同市池田町マチ、現在は休学中の池田町マチが手掛けた。「粋な感じと、祭りのめめたい雰囲気を出した」と言う。

法被作りは酒まつり実行委のメンバーで、池田高の定時制で講師として美術を教えている横山篤志さん(41)と池田町マチ、デザイナーの池田町マチが呼び掛けて実現した。横山さんは同校の備品に、シルクスクリーンの印刷用の大型感光器があることから活用を思い立ち、知人の瀧下さんに協力を求めた。

シルクスクリーンは木枠に張った布にインクを透過させて印刷する技法で、横山さんと瀧下さんが指導。定時制の生徒や美術部員、実行委メンバーら約25人が、2月に入ってから試し刷りなどを繰り返し、法被を完成させた。

美術部の山田さくらさん(16)は「初めての印刷技法で工程も多くて難しかったが、楽しく作業できた。町のにぎわいを取り戻すため、少しは役に立てた気がする」と話している。

四国酒まつりは21日午前10時～午後4時、池田町マチの商業ビル・サンライズを試飲会場に開かれ、地元銘酒の今小町、三芳菊、芳水の各酒蔵が一般公開される。

(佐藤陽香)



完成した法被を持つ美術部員と瀧下さん(手前)
＝三好市の池田高校